

あの時の子どもたちは 今、どうしてますか？

「あの時の子どもたちは、今、どうしてますか？」某老人施設に入居されていた老人会の会長Aさんからの年賀状であった。今、あの時の子どもたちは三十三歳、月日の立つのは早いものである。

春から五ヶ月かかって育てた花鉢を抱えて、三十分以上歩いた施設訪問だった。

休みも交代で水やりを行い、教室に飾りきれないほどの花が育った。折角育てた草花である。既に案内係が決められており、私を出し抜いたあの時の生徒の自慢そうな笑顔が今も忘れられない。

そのことがあってから、毎年の年賀状が一枚増えた。A氏からの手紙である。そして、「あのときの子どもたちは、

教育随想



南区 白幡中学校長
橘 克彦

今……」

『皆、元気ががんばってます。私は翌春、彼らを送り出すことができずに異動となりました……。』その生徒たちの中の一人が仕事中に事故死した矢先であった故、それ以上詳しいことは書けなかった。しかし、他の生徒は彼の分まで元気に活躍している。

今、寒々とした教育世論がある。私の教員人生が、よき人々と生徒に囲まれ、泣き、笑い、喜びを共有できたことに幸せを感じ、回想するこの頃である。そして、A氏の年賀状が数年前から届かなくなり、時の流れを実感している。

(たちばな かつひこ)

Aさんと生徒たちとの出会いは、彼らが中学二年生の時であった。年度初め、綺麗な教室で勉強したいとのことから教室に花を飾ることとなった。自分たちのアイディアと汗とで素晴らしいクラスにしようとの意気込みが感じられた。花を買うお金がないことから廃品回収を行うことが生徒から提案された。古新聞等の集め方、保管の仕方、業者の選定、価格の交渉、これら全て学級会で討議し、分担し、それぞれ生徒が当たった。当時の用務員さんが保管場所を提供してくれた。

保管場所がいっぱいになると業者が回収に来てくれた。学級会は充実していた。それぞれの分担の報告があり、相談があり、提案があった。

一万円強のお金があったという間にたまった。花を買うのは高いから種子を買うことになった。発泡スチロールの箱を集めてきたのも生徒である。日曜日も夏

育てた花をプレゼントし、歌を唄い、多くのお年寄りと一緒に、楽しい一時を過ごした。その後、老人会会長のA氏からお手紙をいただいた。生徒が何人かずつ放課後遊びに来てくれるようになり、ゲートボールなどをともに楽しんでいるとのことであった。担任としての最高の喜びを感じていた。その数日後の文化祭